

～地域が学生を育て、学生が地域を元気にする～

# 荒町・連坊・東北学院大学通信

1

**令**和5年4月、仙台市立病院跡地に東北学院大学五橋キャンパスがオープンします。土樋キャンパスと合わせると約11,000人の学生が大学に通うということで、交流人口が大幅に増加し、荒町・連坊地域に小さくない変化が訪れることが予想されます。

## 「地域が学生を育て、学生が地域を元気にする」

そんな関係を目指して、既に地域と東北学院大学とが連携する様々な取り組みが動き始めています。令和3年3月から、コロナ禍の中、荒町地区連合町内会、連坊地区町内会連合会、荒町市民センター、荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会と東北学院大学地域連携センター、地域連携課のみなさんと、区役所も入り、意見交換を始めています。このたび、それらの取組み等について、地域のみなさまにお知らせする地域だよりを発行します。令和4年度中に計4回、発行する予定です。どうぞ、よろしくお願いいたします。



## ～メッセージをいただきました！～

若林区初めての総合大学として、我が母校でもある東北学院大学が身近に来てくれることを、心から歓迎しています。学生のみなさんには、商店街・地域に足を運んでいただくのはもちろん、地域づくりのパートナーとして、一緒に商店街・地域を盛り立てていくアイデアを考えてもらえればと思っています。五橋キャンパスオープンを機に、荒町・連坊は東北最大級の学生街に生まれ変わります。この変化をチャンスと捉え、私たちも、新しい荒町・連坊に向けて、学生とともに成長していきたいと考えています。

荒町商店街振興組合 佐藤隆俊理事長



東北学院大学の移転が目の前に迫ってきました。昨年大学は、「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集作成に向けたアンケート調査」を実施しました。今年度は、このアンケート調査が、調査し放しにならないよう具体的なアクションを興す年度になればと思っています。そのためには大学と地域が協働で、地域の課題を解決する活動を推進していくことが求められています。大学には、ハード・ソフト両面の支援を期待しますが、具体的にどんな支援が大学側で出来るのか、情報提供が待たれます。また、地学連携に係わる窓口の一本化も願っています。

連坊地区町内会連合会 佐竹伸彦会長

東北学院大学地域連携センター・地域連携課では、昨年度、荒町・連坊地区に関わる町内会や商店街組合、大学などの各種団体に所属する皆様の地域課題に関する声を集めた資料「荒町・連坊地区における地域づくりの声データ集」の作成に取り組んできました。作成を通し、地域の皆様の熱い思いに触れることができました。ご協力を頂き、大変ありがとうございました。今年度は収集した地域づくりの声をもとに、新キャンパスの供用開始に向け、地域と大学の連携・協働に向けた基盤づくりに取り組んでいきます。引き続き、宜しくお願いします。

東北学院大学地域連携センター 石塚直樹特任准教授



# 「荒町・連坊地区における地域づくりの声のデータ集」が完成しました！



アンケート報告会 (R4.3.30)の様子

「令和3年度仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」の助成を受け、「荒町・連坊地区における地域づくりの声のデータ集」が完成しました。地域からの大学・学生に対する期待や不安、学生・教職員からの地域への思いが掲載されています。速報版のパンフレットはみなさまにお配りしております。今後の荒町・連坊地区における地域づくりのためのヒントとして、ご活用いただければ幸いです。アンケート調査にご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

※データ集のお問合せ先：東北学院大学地域連携センター・地域連携課



## 早稲田大学周辺商店街×東北学院大学五橋キャンパス周辺地域オンライン意見交換会

令和3年12月、東北学院大学ホーイ記念館にて、早稲田大学周辺の7つの商店街と1つの古書店組合が参加する組織である早稲田大学周辺商店連合会のみなさまと、荒町・連坊地区のみなさまとでオンライン意見交換会を実施しました。当初は、有志のみなさんと現地を視察する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン開催に変更となりました。

早稲田大学では、コロナ禍の中で地元の商店街を応援したいという学生や卒業生の自発的な取組みが生まれ、それが大きくメディアで取り上げられました。早稲田大学社会連携課の山口さんは、「大学を取り巻く早稲田の町が学生、卒業生、教職員にとって、特別な心の故郷であるということあらためて再認識した」とおっしゃっていました。

また、早稲田大学周辺商店連合会の北上会長は、コロナ禍における学生×商店街連携の取組みとして「わせくまデリ」（各商店の商品を学生が配達する）や「ワセメシスタンプラリー」などの取組みについて紹介してください、同連合会事務局長の滝吉氏は、「大学も地域も、お互いに良い学生を作っていく、学生を育てていくという認識を持ったまちづくりが必要。はじめから良い学生が来るという間違った認識を持たずに共存共栄を目指していくべき」と、学生と地域とが信頼関係を築いていく上でのヒントを教えてくださいました。

それらを受けて、荒町・連坊のみなさんからは「早稲田愛」を見習い、「学院大愛」を醸成していく事が大切だと思った」「こちらでも1商店ではなく連合商店街のような面的に連携していけたら良いと感じた」などの感想をいただきました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



東北学院大学ホーイ記念館に集まった荒町・連坊地域の皆様

## じゅうにそう 十二社商店親睦会、工学院大学と荒町・連坊地区とのオンライン意見交換会

令和4年2月、東京都新宿区にある工学院大学と十二社商店親睦会のみなさまと、荒町・連坊地区のみなさまとで、オンラインによる意見交換会を実施しました。



オンライン画面に映った連坊コミセン内の様子

工学院大学情報学部長の三木教授からは「最初は専門分野のIT技術を通じて地域の活性化に取り組み始めたが、地域の伝統のお祭りに参加させてもらうことで、地域と深く溶け込むことができた」というお話があり、十二社商店親睦会の風間会長、品川副会長は、「学生が来ることが起爆剤になり、新しい感覚になった。逆に学園祭にも参加させてもらうなど、ギブアンドテイク、ウィンウィンの関係になっている」と両者の友好関係について教えてくださいました。プロジェクトの学生代表で熊本県出身の永山さんの「学生のうちから地域に関わることができるのが魅力。東京の人たちは冷たいというイメージがあったが、商店会のみなさんと関わっていく中でとても温かい気持ちになっていった」という発言には、荒町・連坊のみなさんも感心していらっしゃいました。

アンケートによると、三木先生の熱心さや地域活動に取り組む学生の生の言葉を受けて、これからの地域と東北学院大学との連携に希望を持たれた方も少なくなかったようです。ありがとうございました。



(左から)工学院大学永山さん、十二社商店親睦会品川副会長、工学院大学三木教授